

第4号様式（第10条関係）

会 議 録（要 旨）

会 議 名	平成23年度 第1回 武蔵村山市介護保険運営協議会
開 催 日 時	平成23年5月26日（木） 午後6時30分 ～ 午後8時00分
開 催 場 所	市民総合センター3階 中会議室
出 席 者 及 び 欠 席 者	出席者：佐野英司会長、石橋洋子副会長、清水光子委員、崎田圭伊子委員、笹本悦弘委員、柳川研一委員、石川清委員、山部利正委員 （事務局）荻野高齡・障害担当部長、島田高齡福祉課長、柏崎相談・支援グループ主査、清野介護認定・給付グループ主査、佐藤管理グループ主査、池谷管理グループ主事 欠席者：加園富男委員、山口久美子委員、藤田仁委員
議 題	1 開会 2 市長による協議会への諮問 3 事務局・委員紹介 4 報告事項 （1）計画策定の趣旨について （2）策定に向けたアンケート調査報告書について （3）武蔵村山市の現状について 5 報告事項 （1）将来人口の予測及び要介護等認定者数の推計について （2）新計画の構成について （3）その他（補足及び次回日程等） 6 閉会
結 論 （決定した方針、残された問題点、保留事項等を記載する。）	報告事項（2）について： ① 軽度認定者数を他市と比較した資料を提示する ② 1割の自己負担に関する質問への回答をクロス集計した資料を次回の会議で提示する
審 議 経 過 （主な意見等を原則として発言順に記載し、同一内容は一つにまとめ。）	○事務局 これより、平成23年度第1回介護保険運営協議会を開会いたします。 はじめに、市長より介護保険運営協議会への諮問を行います。 ○市 長 （介護保険運営協議会への諮問） ○事務局 引き続き、市長より開会のあいさつをいただきます。 ○市 長 本日は、公私ともご多忙の中ご出席いただき大変ありがとうございます。介護保険制度の施行からはや11年が経ち、安定的な運営が図られておりますが、医療ニーズの拡大や単身世帯などにおける在宅生活の断念、家族負担の拡大といった課題も生じております。また、団塊世代が高齢者世代に差し掛かっている現在、当初は3兆6,000億円ほどであった介護費用が、平成22年度には7兆9,000億円と2倍以上に拡大し、保険料も第5期では5,000円を超えるものと見込まれています。こうした課題を解決するため、日常生活圏内における医療・福祉・生活支援サービスが切れ目なく一体的に提供される「地域包括ケアシステム」を確立し、給付と負担のバランスを図り、持続可能な介護保険制度の確立につながっていくものと考えております。 今回諮問させていただく内容は、武蔵村山市高齢者福祉計画・介護保険

事業計画に関するものです。これらの現状と課題を踏まえ、高齢者が安心して生き生きと暮らせるまちづくりの道筋をお示しいただきたいと思いません。

(市長退席)

○事務局

続いて、事務局の紹介をさせていただきます。

(事務局紹介)

続いて、委員各位より自己紹介をお願いいたします。

(委員自己紹介)

それでは、協議会の方に移らせていただきます。なお、今協議会の会議と会議録については「公開」となっています。

○会長

それでは、第1回運営協議会を開催させていただきます。今回の会議については、傍聴者なしとなっています。また、委員の出席は11名中8名となっています。

はじめに、報告事項についての説明をお願いします。

○事務局

それぞれの事項について説明

(1) 計画の趣旨について

(2) 策定に向けたアンケート調査報告書について

(3) 武蔵村山市の現状について

○会長

以上3点についてのご報告について、ご質問を受けたいと思います。

報告書の中に幾つか修正すべき箇所があるので、内容の精査をお願いいたします。

調査対象者数は要介護度別に人数を設定しているのでしょうか。それともトータルで無作為抽出をしているのでしょうか。

○事務局

全体の調査対象者数を100とした上で、要介護度別の人数の割合を案分して、対象者数を抽出しました。

○会長

一般高齢者数は緑が丘エリアが多くなっていますが、軽度認定者数は北部エリアが多く、中・重度は西部エリアが多くなっています。このような傾向になっている理由は何でしょうか。

○委員

緑が丘地区の場合は要介護3以上になったら基本的に施設に入所しますから、中・重度高齢者の人数が少なくなっています。他の地区の場合は地元の方が多いため、支えあって生活していける可能性が高いと考えられます。

○会長

軽度認定者の数字が他市町村に比べて高いのか低いのかを検証すること、介護予防の効果を検証することにつながると思います。項目によっては中・重度以外で数値が接近しているものもありますから、追々お示ししていただきたいと思います。

132 ページの1割の自己負担の問題についてですが、「妥当」だと考えている人が39.2%、「高い」または「やや高い」と考えている人が22.6%という回答内容について、要介護度ごとのクロス集計をかけてほしいです。要支援では使えるサービスが少ない分負担額が少なく、逆に要介護5では、限度額が高くなる分負担感も大きくなっているのではないかと思います。もしクロスをかけているのであれば、次回辺りにお示ししていた

きたいのですが。

○事務局

要介護度別のクロス集計は既に終わっておりますので、資料としてまとめることは可能です。

○副会長

地区ごとに整理を行ってもよいと思います。

○会長

できれば、市の概要も数字で表していただけると助かります。
それでは、協議事項に移ります。

○事務局

それぞれの事項について説明

(1) 将来人口の予測及び要介護等認定者数の推計について

(2) 新計画の構成について

(3) その他（補足及び次回日程等）

※その他、追加で虐待ガイドブックの説明を行う

○会長

他に何かご意見などはありませんか。

○委員

夫婦二人で住んでいる家の戸が開かないという話を聞き、警察と消防署にお願いして戸を開けてもらったが、旦那さんが既に亡くなっていて、奥さんもベッドの上で衰弱していました。あと少し遅れていたら両方とも亡くなっていたかもしれません。そこで石橋委員にお聞きしたいのですが、高齢者家庭の実態は掌握しておられるのでしょうか。

○副会長

60代のご家庭の場合だと一週間に1回電話をするぐらいで、訪問しても「余計なお世話だ」と言われてしまいます。

ご夫婦がともに健康上問題がある場合には、必ず見回りをするようにしています。また、高齢福祉課からの依頼を受けて見守り活動を行っています。近所の方から「戸が閉まったままです」といった情報があれば、すぐに何うようにもしています。

○委員

我々老人会でも、週に1回は必ず、一人暮らしの高齢者や老夫婦の住まいを見回るようにしています。プライベートの問題で、直接訪問して確認するのは難しいので、新聞や郵便物や溜まっている場合に調べることしかできておりません。去年は、病気になりかけた人を見つけて警察に届け出たことがありました。

この前亡くなった方は比較的丈夫だったのですが、奥さんは介助しないと食事が作れないため、旦那さんが面倒を見ていました。しかし、旦那さんが突然死してしまい、奥さんはそのことを2日間もの間外に伝えることができませんでした。私の場合は、子どもと同居しておりますので孤独死の心配はありませんが、このような事例は今後増えてくると思います。老人会としても、できるだけプライベートを守りつつ、ひとり暮らし高齢者や高齢者のみ世帯の実態を調査したいと考えています。

免許の書き換えの際、75歳以上のドライバーは教習所でシミュレーション講習の受講のほか、認知症の検査も行うことになっていますが、この検査に引っかかると免許の更新が簡単にはできなくなると思います。

○会長

はじめにお話しいただいた例は、今後もたくさん出てくる可能性があります。高齢者のみの世帯が44.2%となっておりますが、要するに、半数近くが孤独死の危険にさらされているということになります。この辺りについ

	ても今協議会の中で協議して、少しでも減らせるような方策がとれればと思います。 今日はこれで終わりとさせていただきます。ありがとうございました。
--	--

会議の公開・ 非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開 ※一部公開又は非公開とした理由 ()	傍聴者： 0 人
-----------------	---	----------

会議録の開示・ 非開示の別	<input checked="" type="checkbox"/> 開示 <input type="checkbox"/> 一部開示 (根拠法令等：) <input type="checkbox"/> 非開示 (根拠法令等：)
------------------	---

庶務担当課	健康福祉部	高齢福祉課 (内線：632)
-------	-------	----------------

(日本工業規格A列4番)